上平川の大蛇踊り

【所　在　地】大島郡知名町上平川（上平川大蛇踊り保存会）
【種　　別】県指定無形民俗文化財
【指定年月日】昭和 59 年 4 月 18 日

沖永良部島の西部に位置する知名町上平川に伝承されている大蛇踊りは他の奄美の芸能（与論の十五夜踊・諸鈍芝居）と違って，一貫した筋書きをもった劇仕立てになっているのが特色である。また，舞台装置はシンプルであるが，大掛かりなもので大蛇が空中高く乱舞する場面は，この芸能の一つの見せ場になっている。

太鼓・蛇皮線の楽で，坊主と小僧が登場し問答する。坊主は小僧たちに女性を泊めてはならないと戒める。そこへ女性の姿をした大蛇の化身が現れて楽に合わせて踊り，退場する。小僧たちがうろたえていると，坊主が帰ってくる。一緒に経をあげると化身が大蛇の正体を現し，ひとしきり空中を乱舞する（この場面は，大蛇を空中高く操るためのヤグラを組み，綱で操る装置を作って表現する）。大蛇が退散すると坊主と小僧も踊りながら退場する。

しばらくして，楽と歌にあわせて出演者全員の喜びの総踊りになる。この総踊りは，琉球の民俗芸能の影響が見られる。

現在は，数年に一回，記念行事等で演ずる。演ずる日は定まっていない。大蛇等の用具の製作は地域の人々が総出で行う。